



山にこそ未来の暮らしを作っていくヒントが、きっとある。
真冬の郡上へ、来たれ。

炭をやき、 猟師と歩く “冬のなりわい” 体験ツアー

■日時：

【第1回】 2010年1月30日(土)-31日(日)

【第2回】 2月13日(土)-14日(日)

■場所： こうじびら山の家

(岐阜県郡上市明宝畑佐137番地3の3)

■料金： 1名 ¥8,500(宿泊費・食費・体験料・保険料込み)

山のおかげで、生きてきた。

炭をやき、猟師と歩く“冬のなりわい”体験ツアー

マイナスの気温とはうらはらに、

炭やきの仕事は真冬も汗が流れ落ちる。その熱風と炎の激しさは、実際に窯の前に身体をおかなくては味わえない。

郡上市明宝はその昔、「**奥**」のブランドで良質の炭を都会に売っていた。山に暮らす人々の貴重な現金収入は、自前で燃料を生み出すことによっていた。

そう、自前で。自分たちの手で山の木を伐り、窯を築き、炭を焼く。焼き上がったら里へ下ろす。そのくり返し。



持続可能で再生可能なエネルギー。

山と、人の手があれば作れるのに。

ガスや電気は便利だけど、はるか海外から運ばれてくる。なにかあったとき石油資源は手に入らなくなるかもしれない、とても不安定なもの。なによりたくさんのCO2を出してしまう。

炭はカーボンフリーだ。

近くの山の木を伐り、炭を焼いても、20～30年もすれば元の雑木林に戻る。そして再び伐って炭を焼く。山に人が関わることで、再生可能なエネルギーを生み出す事ができた。

そして、冬しか味わえない山の恵。

猟は冬しかできない。

野性味たっぷりのイノシシやシカは、山に入る男達がいるからこそいただくことができる。

だが、猟師の数も年々減ってきている。

炭と猟。山で生きてきた人々の知恵と技は、継承の危機にある。昔の話で終わらせていいのだろうか。



山にこそ未来の暮らしを作っていくヒントが、きっとある。
真冬の郡上へ、来たれ。



Howto炭焼き

今回は一部を体験しますが、郡上の冬の暮らしを支えていた炭焼きはこんな風に行われていました。(写真はイメージです。)

GO!



1.山を買う(親分が)いくらになるかは賭け!



2.山を借りる(炭焼きが)炭を焼いて返済します。



3.炭焼き窯をつくる炭材に合わせて移動。



4.木を伐り炭材にするいい炭になる"金木"を。

炭をやき、猟師と歩く“冬のなりわい”体験ツアー二日間の流れ

【一日目】第一回:1月30日 第二回:2月13日

11:00 集合、オリエンテーション

11:30 昼食

12:30 炭出しと木の立て込み.....

16:00 休憩・入浴

18:00 夕食(郷土料理)・交流会.....

21:00 冬の星空観察会

豆炭コタツと豆炭あんで暖をとりながら星空を楽しみます

※荒天時は屋内にてスライドショー

22:00 就寝



シシ鍋であつたまる↑

【二日目】第一回:1月31日 第二回:2月14日

07:00 起床

08:00 朝食

09:30 猟師さんのガイドで動物の足跡探し.....

12:00 昼食(シカ肉料理ほか)

14:00 炭出し.....

15:00 ふりかえり、アンケート

16:00 終了



山の男はカッコいい!↓



7.立て込み窯内に炭材を並べる



8.火入れ窯の入り口で火入れ



9.炭俵をつくる1俵15kgくらい入る



10.炭出し(白炭)アツアツのまま出す!



11.炭切り・俵詰め等級に分けて商品に。



12.担いで降りて売るやっと現金になる!

こんな人におすすめです!

- 冬のこうじびらを楽しみたい人
- 郡上の冬のごちそうを食べたい人
- 山仕事に興味がある人
- "本当の寒さ"を味わいたい人
- 田舎のこれからに興味がある人
- 郡上への移住を考えている人
- 田舎体験ではなく、リアルな田舎暮らしを学びたい人
- 自分の身体で生きてきたカッコいいジイさんに会いたい人

お申込方法

参加のお申込は、メールかFAXで以下の情報をお送り下さい。

折り返し、詳細案内をお送りします。最小催行人数各回10名です。

また、キャンセル料は次のとおりですので、あらかじめご了承ください。7日前:参加費の30%、前日:参加費の50%、当日:参加費の100%参加者のみなさまの個人情報は、当団体が責任を持って管理します。今後各種イベントなどの情報をお送りすることがあります。

ふりがな 名前	性別 男・女 (○をつけて下さい)	生年月日 年 月 日 (保険加入のため必ず記入してください。)
住所	電話番号 (普段連絡の付く番号。携帯可。)	
参加日程 (○をつけて下さい)	【第一回】 1月30日31日 【第二回】 2月13日14日	集合場所までの交通手段 (※郡上市八幡町までの送迎有り)

このツアーへの期待を一言

【申込先】 e-mail→koujibira@gmail.com FAX→0575-87-3052



↑山の家はこんなところ

「こうじびら山の家」は どんなところ？

岐阜県郡上市明宝（旧明宝村）の畑佐（はたさ）という地域にある、体験交流施設です。大きな古民家と、大小のバンガロー、そして炭焼窯や裏山があります。キャンプや合宿、イベント会場として利用可能です。古民家丸ごと貸し切り利用が基本で、田舎の親戚の家に帰った時のようにのんびりくつろげるのが魅力です。

週末を中心に、田舎の自然と文化を体験できるプログラムも季節にあわせて提供しています。施設はボランティアの力で改修し、2008年5月にオープンしました。運営しているのは、NPO法人こうじびら山の家（2007年設立）です。

田畑や山、川という地域の自然に関わりながら生きていく人を増やすこと、持続可能な知恵や技を学んで伝えること、これからの田舎にあった新しいライフスタイルをつくることに取り組み、最終的には自然的・社会的両面の意味での「里山」を再生することをめざしています。



薪を割って燃料にしよう↑



↑裏山でのターザンロープ

現在は主に、田舎の人も都会の人も「田舎の暮らしと遊び」を楽しむ機会を提供しています。

こうじびら山の家は、もともと地域の方々と素泊まり民宿兼キャンプ場を運営していた場所でした。しばらくお休みしていた所を法人がお借りしています。さらに、その昔は鉱山として栄えた場所でもあります。

◆貸し古民家は4月～11月の週末と祝祭日・夏休み期間

◆体験プログラムは毎月開催

◆ご予約は随時受付

◆最大利用可能人数：50名

◆お風呂あり（薪風呂、有料）

◆近くに飲食店、雑貨屋さん、温泉あり



お釜で炊いたごはんはおいしい↑

●料金表

■貸しコテージ（古民家一棟貸し）料金案

人数(人)	基本料金	宿泊時加算/人
1～10	¥25,000	¥2,000
11～20	¥50,000	¥2,000
21～30	¥70,000	¥1,500
31～40	¥85,000	¥1,500
41～50	¥100,000	¥1,500

- ・2泊目以降は基本料金から5,000円引き
- ・宿泊時加算は子どもは1,000円、幼児は基本無料、布団使用時のみ1,000円
- ・台所用料、BBQ用品レンタルは基本料金に含める、薪代は別途必要
- ・お風呂は人数に関係なく5,000円/1回
- ・薪ストーブ使用期間は暖房費として1人500円加算
- ・プログラムを行う場合は別途1,000～2,000円/1人の料金で実施
- ・川遊びなどで丸一日ガイドする場合はインストラクター料が別途必要、インストラクター1人15,000円/日+実費（遊漁証など）

■バンガロー 大¥6,500 小¥5,500（2泊目以降500円引き）



↑ボランティアの力で改修しました

●こうじびら山の家「応援団」募集中です。

年会費2,000円、入会金無し、毎年10/1～12/31が更新期です。

「山の家通信」を季節毎にお届けします。

その他、年に一度の会員大交流会の参加費無料、年に一度の利用料金無料特典もあります。

【入会方法】郵便振替用紙のご依頼欄に住所・氏名・電話番号、通信欄にメールアドレス・「応援団」とご記入の上、下記口座にご入金ください。

郵便振替 口座番号[00880-6-104972]口座名称[特定非営利活動法人こうじびら山の家]

【お問い合わせ先】

〒501-4306 岐阜県郡上市明宝畑佐137番地3の3

TEL:0575(87)3039 FAX:0575(87)3052

メール:koujibira@gmail.com HP:http://www.gujo-tv.ne.jp/~koujibira/

きーちゃん

代表理事・北村周（きたむら あまね）

1983年兵庫県神戸市生まれ。大学在学中に岐阜県郡上八幡にある「山と川の学校」に出会い、清流吉田川に一目惚れする。在学中は自然体験のインストラクターとして活動し、大学卒業後、郡上に移住してキャンプ場跡地を体験型交流宿泊施設としてボランティアの手を借りリフォーム＆リニューアル。そこを拠点にNPO法人「こうじびら山の家」を設立する。現在、こうじびら山の家と地域をフィールドに、持続可能な新しいライフスタイルの確立を目指している。保育士。ブログ「きーちゃんの山の家奮闘記」も検索して読んでね！



もんじ

副代表理事・河合美世子（かわあい みよこ）*旧姓：十文字 1977年青森県六戸町生まれ。学生時代から環境分野の市民活動に没頭、(財)京都ユースホステル協会勤務を経て「地域づくりにつながる環境教育」を学ぶため岐阜県立森林文化アカデミーに入学、卒業後に郡上へ。事務全般とコーディネートを行う。田舎に軸足をのいた生き方と働き方を模索中。田舎の生活文化を高齢者から聞き書きするのがライフワーク。季刊「里山の袋」・コミュニティペーパー「月刊かしも通信」に連載中。調理師。

